

〔出資法人の自主性・自律性の向上に向けた取組〕

経営基盤の充実・強化

- ・松山観光港の乗降客数は、現在のターミナルビルが開業した平成12年当時は年間約147万人であったが、年々減少を続け、航路の廃止・減便、利用客の高速道路へのシフト、金融危機以降の経済活動の停滞などの影響から、平成20年は対前年比13.4%減の103万人となっている。今後も乗降客数の確保の見通しは大変厳しいものが予想される。
- ・当法人の経営基盤の柱である「テナント収入」「駐車場収入」は、この乗降客数に大きく左右され、平成20年度は売上高が前年比6.7%減の148,921千円、当期利益はテナント・駐車場収入の一定額確保と維持管理費を節減したものの、前年比52.9%減の3,090千円となった。
- ・このため、海・港・船に対する愛着心を醸成し、船舶利用者の増加につなげるため、平成20年度はベンチャーフェアや海の記念日イベントとして忽那諸島体験航海等を実施しており、松山観光港の賑わいづくりに努めていることは評価できる。引き続き、獲得できる利益額と乗船客の増加への寄与度を指標として判断したうえで、積極的にイベントを実施し、松山観光港のマスコットキャラクター「かんっこ」やテーマ音楽なども活用して、効果的に情報を発信していただきたい。
- ・また、収入増加の取組みについては、新たに各テナントの売上、駐車場売上、貸室の売上等を指標として収入目標を設定するとしたほか、経費節減の取組みについては、外部委託している維持管理費等の経費や事務経費の節減を継続して実施するなど努力していることが認められる。
- ・なお、これまでの2次評価で提言していた「駐車場料金の改定」については、当面の経営状況や景気状況、周辺民間駐車場の様子を見ながら必要に応じ検討する、また、「修繕計画の策定」については、施設の維持管理について、5カ年の修繕計画を設定して予算化し、資金調達の手当てを行うこととしており、両項目とも継続して状況に応じ対応していくことが必要である。
- ・しかしながら、当法人の収入はテナント会社の業績や港の利用者の増減に左右されること、また、今後施設の修繕等の設備投資の負担が増えることが予想されることから、スペシャルドラマ「坂の上の雲」の放送や島博覧会の開催などを契機として、船舶利用者増に向けた取組を強化することにより収入増加を図り、経営基盤の充実・強化を図っていただきたい。

〔総合的評価〕

- ・乗降客数の安定確保の見通しが厳しい中、船舶利用者に対するサービス向上や、イベント開催など観光港の賑わいづくりによる利用促進に継続して取り組むこと。また、テナント企業への協力等施設を活用した収益確保に努め、将来の修繕等の設備投資に向けた財政基盤の強化を図ること。
- ・松山観光港ターミナルの指定管理者として、引き続き経費節減に努めつつ、適正な管理を行うこと。